

乳がんの 専門治療



▶ 乳がんの現状と当院での乳がん診療

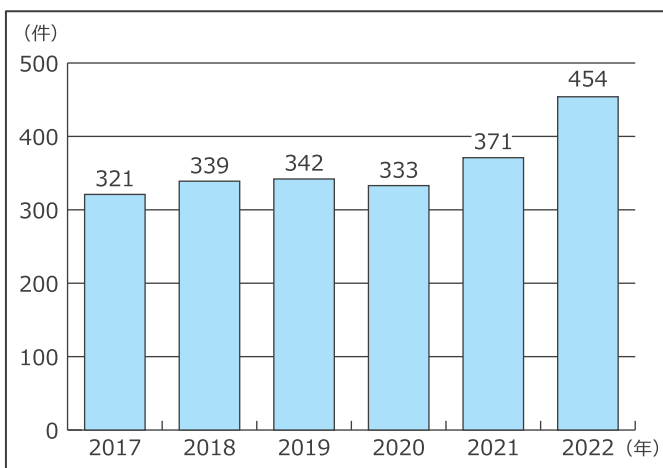
神鋼記念病院では、急激に増加している乳がんを最重点疾患とのひとつとして、2005年に乳腺科を新設しました。さらに、他科との連携を強化したチーム医療を推進させ、乳がんにおけるすべての治療を可能にするため、2007年に乳腺センターを開設しました。過去18年間（2005～2022年）で、当センターでの乳がん手術は4847例の実績となり、兵庫県下で最も乳がん手術の多い病院として、また全国的にも手術件数が多い、乳がん基幹病院として認知されています。近年では、

乳腺科 部長
兼 乳腺センター 副センター長
Hajime Matsumoto 松本 元

愛媛大学 平成7年卒業
愛媛大学大学院 平成19年卒業

- 日本乳癌学会乳腺認定医・専門医
- 日本外科学会認定医・専門医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構読影認定医
- 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師

過去6年間の新規乳がん手術件数（NCD登録症例）



毎年300例を超える新規乳がん手術が行われておりましたが、昨年は454例と過去最高の手術件数となりました。

▶ 乳がんに対する治療

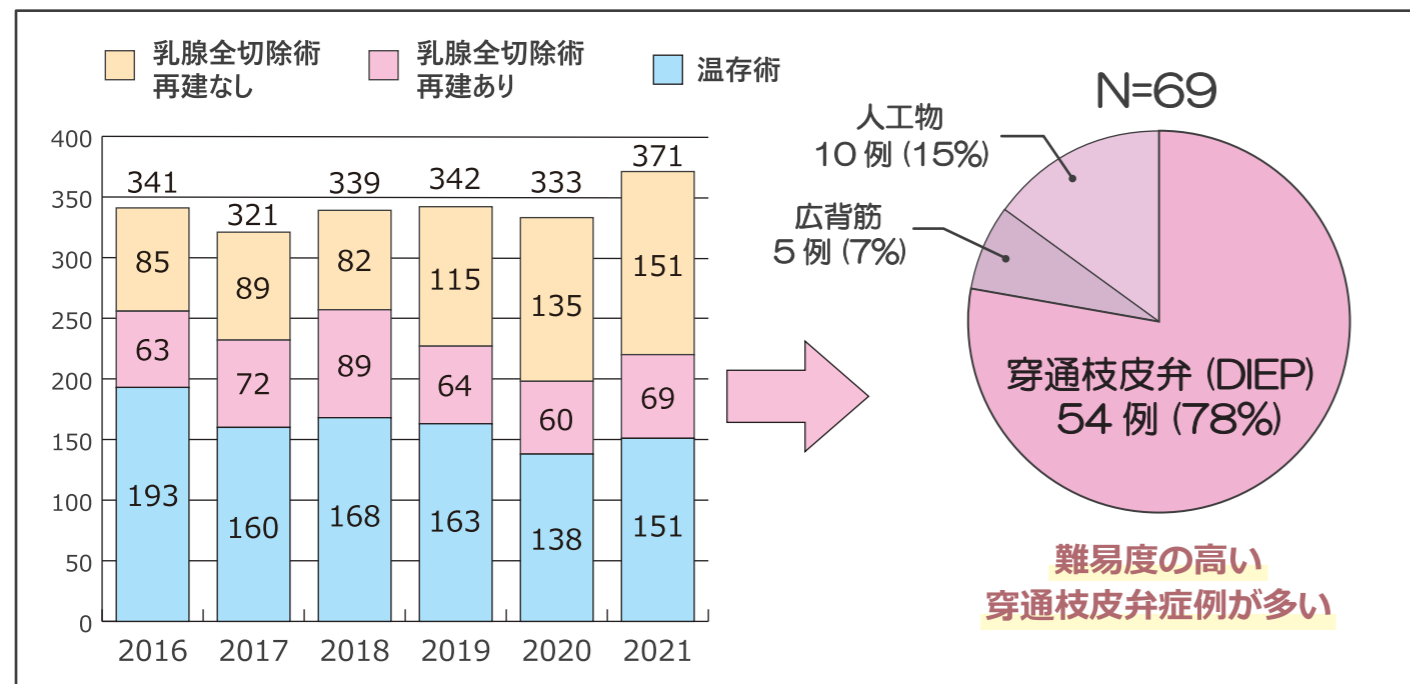
明らかな遠隔転移がなく、根治（完全に治ること）が可能と考えられる乳がん患者さんに対しては、外科療法（手術）、薬物療法（内分泌療法や化学療法）、放射線療法を駆使して根治を目指した治療を行います。

▶ 乳がんに対する外科治療

手術は根治を目指すうえで不可欠な治療であり、根治性と整容性(乳房の形状)の両立を考慮し、乳房温存術もしくは乳房全切除術を行います。乳房全切除術を行う場合には、乳房再建の手術を行

うことで、乳房の喪失を回避することも可能であり、当科では形成外科と協力して積極的に対応しています。

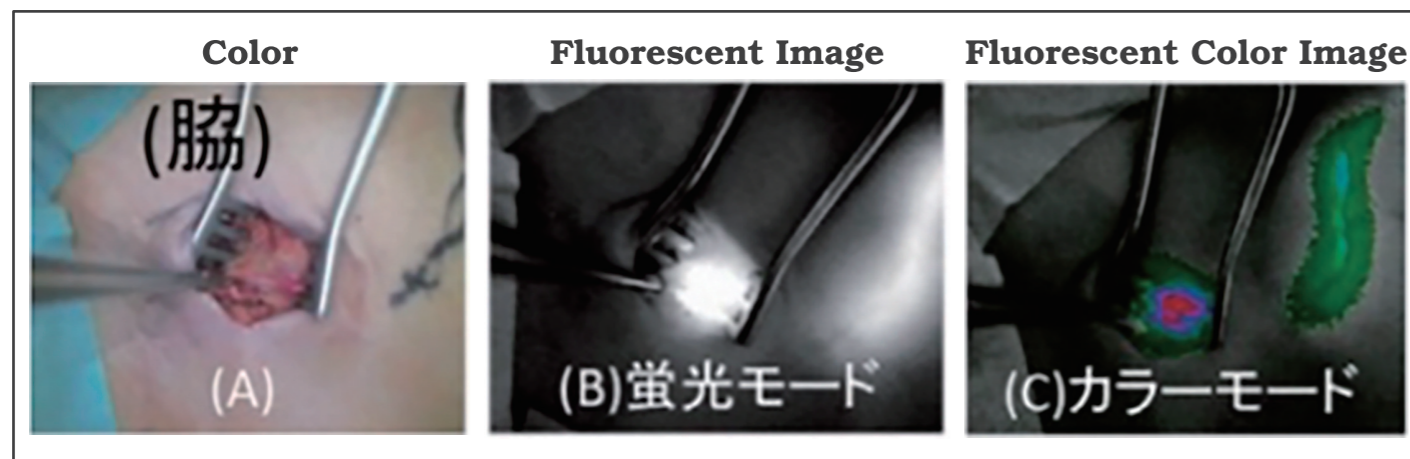
乳房同時再建の方法 2021年



また、腋窩リンパ節に明確な転移を認めない場合には、術後のリンパ浮腫のリスク軽減を目的としたセンチネルリンパ節生検(転移する可能性の高いリンパ節のみを切除し、術中に転移の有無を検討する)が、標準治療として行われています。当科では、放射性物質が不要で、かつ高い検出力

のある ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検の開発、臨床応用に取り組み、2007 年から同法を採用し施行しています。現在では、同法によるセンチネルリンパ節生検はガイドラインにも掲載され、多くの施設で導入されるようになってい

ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検



▶ 乳がんに対する薬物治療

薬物療法の最大の目的は、体のどこかに潜んでいる目に見えないがん細胞を根絶して、将来の再発・転移を予防することです。

現在、乳がんの再発予防効果が確認されている薬物療法は大きく分けて、抗がん薬(化学療法)、ホルモン療法薬、抗 HER2 療法薬などの分子標的治療薬の3種類があります。

これらの薬剤を手術前もしくは手術後に使用する

るかどうかは、サブタイプと呼ばれる乳がんの遺伝子の発現を基にした性質と、病気の進行程度から予測される再発のリスクを考慮して決定します。しかし、乳がんの遺伝子発現を全症例で検討することは不可能であるため、通常は針生検や手術検体などで施行した免疫組織化学染色の結果をもとにサブタイプ分類を行います。

サブタイプ	ER,PgR ホルモン受容体	HER2	Ki67 がん細胞の増殖活性	主な薬物治療
ルミナルAタイプ	陽性	陰性	低い	ホルモン療法
ルミナルBタイプ	陽性	陰性	高い	ホルモン療法 ± 化学療法
ルミナルHER2タイプ	陽性	陽性		ホルモン療法+抗HER2療法+化学療法
HER2タイプ	陰性	陽性		抗HER2療法+化学療法
トリプルネガティブ	陰性	陰性		化学療法

ホルモン療法薬と抗 HER2 療法薬は、がん細胞自体がもっているホルモン受容体や HER2 受容体を介して攻撃するので、がん細胞がこれらの性質をもっている場合にのみ使用されます。

加えて、薬物療法を手術前に行うことにより、切除が困難な進行乳がんが切除可能となったり、大きい腫瘍のため乳房全切除術が避けられないと考えられた症例において腫瘍を縮小させることにより、乳房温存手術が可能となるなどの効果が得られることがあります。

さらに、手術前に薬物治療を行うことで、乳がんが使用薬剤にどう反応したのか、効果はどうであったかの重要な情報を得ることができ、手術後の治療法の参考になります(Response-guided therapy: 反応性による治療)。

一方で、遠隔転移があり根治が困難な場合は、適切な薬物療法や放射線治療(ガイドラインを参考とした標準治療)を行うことで、高いQOL(生

活の質)を維持しながら、生存期間の延長を目指します。

近年では、ホルモン療法薬にバルボシクリブやアベマシクリブといった分子標的薬(CDK4/6阻害薬)を併用したり、HER2陽性乳がんに対してトラスツズマブデルクステカンなどの抗体薬物複合体(ADC)が臨床でも使用されるようになり、状況によっては年単位で安定した状態を維持することも可能となってきています。

さらに、ホルモン受容体や HER2 受容体の発現がなく、抗がん薬のみが治療の選択肢であったトリプルネガティブ乳がんでも、症例によってはPARP阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤が適応となり、良好な治療成績が報告されています。

これらの薬物療法を行うことと並行し、緩和治療科や放射線治療科、がん相談支援センターなども連携することで、その人らしく、できるだけ長く過ごせることを目標とします。

Contents

■乳がんの専門治療

■開業医探訪

■神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47
TEL:078-261-6711 (代表)

FAX:078-261-6726

URL: <https://shinkohp.jp>

発行責任者: 理事長 山本 正之

編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長

松本 元

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院

<https://shinkohp.jp>

▶ 有害事象対策とチーム医療

近年の薬物療法の進化により、乳がんに対する薬物療法も、従来の化学療法に加え分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など、多岐にわたる新規薬剤が用いられるようになりました。これらの薬剤は、従来の治療と比較して、高い腫瘍縮小効果や無増悪生存期間の延長などの良好な治療効果をもたらしました。しかし、一方では従来の薬物ではみられない特有の有害事象の発生や、高い有害事象の発生率などの問題もあります。

特に、間質性肺疾患はその代表であり、トラスツズマブデルクステカンでは9.5%と非常に高率に発症すると報告されています。投与に際し細心の注意が必要であり、発症時には早期から呼吸器内科と密接に連携することが不可欠となっております。

また、抗HER2療法薬では、ときに心機能異常が出現することがあり、生理検査室と連携した心エコーによる心

機能のチェックや、循環器内科との連携が重要です。

さらに、免疫チェックポイント阻害剤では、過剰な自己免疫反応による副作用と考えられる免疫関連有害事象(irAE)が発生することが知られています。irAEは従来の抗がん薬とは大きく異なり、皮膚を始め消化器、呼吸器、甲状腺、下垂体などさまざまな臓器に及ぶことが問題であり、他の診療科との連携が重要であると考えられています。

このように、近年の乳がん診療では、治療にあたる我々乳腺科のみならず、他の診療科や院内各部署との連携が非常に重要となっており、病院全体の総合力が問われているとも言えます。これからも、様々な患者さんの状況に応じて対応できる体制を整え、さらなる乳がん診療の充実にも力を入れていきたいと考えております。

今後とも、神鋼記念病院乳腺センターをよろしくご協力致します。

開業医探訪

Vol.69

今回は、JR山陽垂水駅前「ウエステ垂水」にて乳腺診療を行っている『ふくはら乳腺クリニック』を探訪致しました。

診療を開始されてどれくらいになりますか？

平成27(2015)年9月、垂水駅からのアクセスが非常に良い「ウエステ垂水」にて診療を開始しました。現在8年目に入っています。

どのような患者さんが来院されますか？

検診で要精密検査となった方やしこり・違和感を感じられた方、乳がん検診を希望される方が来られます。30代後半から90代までと大変幅広い年代の方々がお越しになられますが、特に40代の方が非常に多い印象で、垂水区を中心に須磨区や西区、明石市から来院されます。これまで延べ7万人が来院され、5万件を超える超音波、3万件のマンモグラフィを行い、全て当日に結果説明を行ってきました。

ふくはら乳腺クリニック

〒655-0029
神戸市垂水区天ノ下町1-1-256 ウエステ垂水2階
TEL:078-705-1108
院長: 福原 稔之

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00~13:30	○	/	/	○	○	○	★
15:00~18:00	○	/	/	○	○	○	/

★日曜: 10:00~14:00
日曜診療・日曜乳がん検診を行っています

休診 火曜、水曜、祝日

ふくはら乳腺クリニック

診療にあたり
心掛けていることは何ですか？

外科医として、これまで多くの手術に携わってきました。当時は私より年上の患者さんが多かったこともあり、敬意を払い、謙虚な姿勢で接することを常に忘れないよう努めてきました。これからも基本姿勢を忘れず診療に取り組んでいきたいと考えています。

また私が男性医師ですので、患者さんのなかには緊張され、恥ずかしく感じる方もおられると思います。当院では女性である看護師・放射線技師と常に連携を取りながら、安心して相談・受診頂きやすいように工夫しています。

ひとこと

乳がんの多い30代後半~60代の女性は、職場や家庭、社会で多忙な日々を過ごされる方が非常に多いです。兵庫県は乳がん検診受診率全国42位と非常に低く、当院では日曜日も診療し、気軽に来院頂けるようにしています。乳腺・超音波・がん薬物の専門医として日々研鑽を積むとともに、施設画像認定を受けたマンモグラフィを備え、兵庫県の乳がん診療に貢献できればと考えています。